

教科等	授業改善の視点	児童の学習状況	改善の計画と評価の方法
国語	<p>①言語活動の充実、「書く」活動の充実【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②恒常的に学習者用端末を活用する授業の推進【ICT機器の活用】</p>	<p>①校内実施の1学期アンケートでは「文章をすすんで書いている」の質問に対して「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答する児童が1割程度いた。</p> <p>②ノートへの書字活動に抵抗感を示す児童が、学習者用端末での書字活動に対し、意欲的に取り組む傾向がある。また、用語や文章の意味が分からない時、直ちに質問する児童が一定数いるため、まず自分で考えて、分からなければ調べるという過程を定着させる必要がある。</p>	<p>①文章を書く際には、前の文章とのつながりを意識させる。完成した文章は、一度読み返す、もしくは他の児童に読んでもらう活動を通して、推敲の大切さを理解させ、適切な文章を書く力を身に付けさせる。「自分が書いた文章を読み返し、分かりやすい表現になるように書き直している。」に対する否定群の回答が1割以下になることを目指す。</p> <p>②不明な漢字や用語については、各々調べさせる。(自力解決を促す。)ノートと学習者用端末の使用頻度のバランスは教師側が意識しつつ、児童の希望に合わせて選択させることで、書く活動に対する意欲につなげていく。</p>
社会	<p>①問題解決的な単元構成を意識した授業展開の推進【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②ICT機器を活用した資料提示や振り返り活動の推進【ICT機器の活用】</p>	<p>①校内実施の「1学期授業アンケート」では、「授業中、すすんで学習している」の質問項目に対して、「とても」と答えた児童が5割弱である一方、「そう思わない」「わからない」などの否定的な回答をしている児童が1割程度いた。</p> <p>②教科書を用いた資料提示だと、どこを見たらよいか分からない児童がいるが、学習者用端末を用いて資料配布することで意欲的に資料を見る児童が増える傾向にある。また、資料の気付きなどを共有することで自分の考えをもてたり、まとめの活動に意欲がもてたりする児童がいる。</p>	<p>①「つかむ」→「調べる」→「まとめる」→「つなぐ」という単元構成を意識させ、児童が主体的に学習課題をもって調べられるようにする。特に、導入では児童の興味関心を高められるような資料提示を工夫し、学習問題作りにつなげていく。「授業中、すすんで学習している」に対して否定的な回答をする児童が5%以下になることを目指す。</p> <p>②資料提示や資料の読み取り場面では、積極的に学習者用端末を使用する。ノートと学習者用端末の使用タイミングを教師側が意識しつつ、振り返りやまとめの活動などにおいて、個々の児童の希望に合わせて選択させていく。</p>
算数	<p>①算数の基礎的・基本的な学習内容の定着【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②ICT機器を用いた問題場面の把握【ICT機器の活用】</p>	<p>①東京ベーシック・ドリル算数3年診断シートAにおいて、正答数7割以上の児童が4月実施で59%、6月実施で78%となっている。</p> <p>②6月実施の「学校評価 児童アンケート」において、「授業は分かりやすい」の質問項目に対して「とてもそう思う」回答が55%、「授業中、集中して取り組んでいる」の質問項目に対して「とてもそう思う」回答が56%となっている。</p>	<p>①指導法工夫改善授業加配教員を活用した習熟度別指導を継続し、特に習熟度の低い児童の少人数グループの指導において、単元の学習に関わる前年度までの学習内容を振り返る時間を確保する。診断シートBおよびCの実施で、正答数7割以上の児童が80%を上回ることを目指す。</p> <p>②教師用デジタル教科書を用いて問題文や図をモニターに投影する。また、教科書付属の児童用デジタルコンテンツの活用を促し、動画の閲覧や図の操作等を通して、問題場面を把握しやすくする。12月実施予定の「学校評価 児童アンケート」の同項目において、「とてもそう思う」回答の向上を目指す。</p>
理科	<p>①問題解決の過程を通して、理科的な資質・能力の習得【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②ICT機器を用いた課題把握と振り返りの充実【ICT機器の活用】</p>	<p>①実験に意欲的に取り組む。予想や、分かったことを自分なりに表現しようとする児童が多いが、一方で、自分の言葉で表現することが難しい児童が1/3ほどいる。</p> <p>②児童は、技能的に学習支援アプリを使いこなすことができている。課題の把握や、結果の記録、振り返りに活用している。考えを深めるために児童同士の対話をより活発にできるようにすることが課</p>	<p>①友達の考えに触れたり、意見交換をしたりする活動を取り入れ、自分の考えを深められるようにする。 また、一斉指導時に、自己の考えを具体的な言葉を使用し書いた児童を意図的に指名し、表現のよさを価値付ける。</p> <p>②学習支援アプリを更に活用し、自分の考えを言葉やその他の方法によって表現されたものを共有して対話していきそれによっていろいろな考え方を結び付けられるようにする。</p>

		題である。	
音楽	<p>①学ぶ楽しさを実感させる授業の充実【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②興味・関心を高め、理解を深めるための ICT 機器の活用【ICT 機器の活用】</p>	<p>①アンケート項目「すすんで学習している」に対して肯定的な回答をした児童が 98%で、3年生時から 2ポイント改善している。このことからほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。</p> <p>②アンケート項目「授業はわかりやすい」に対して「あまりそう思わない」の回答をした児童が 1%いるが、昨年度より 5ポイント改善している。また、肯定的な回答をした児童は 99%で 5ポイント改善しているため、昨年度 ICT を活用してスモールステップで取り組んだことが一定の成果を上げたと考えられる。器楽の技能の習熟に関して、引き続き一人ひとりの学習過程に応じた支援の充実が必要であると考えられる。</p>	<p>①感覚統合が促進されるような常時活動や、体を動かす活動を取り入れ、児童に選択させたり、アンサンブルなど友達と関わり合って表現したりすることで、主体的に活動できるようにする。</p> <p>②ICT を活用して、自分に合ったパートや楽譜を選択できるようにして、スモールステップで学習に取り組むことができるようにする。また、鑑賞で気付いたことや感じ取ったことを伝える手段は、音楽の共通語を増やししながら、絵や色、図形楽譜などを認め、ワークシートでも端末でも、児童の得意な方法で表現できるようにする。</p>
図画 工作	<p>①学ぶ楽しさを実感させる授業の充実【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②振り返り活動の充実【ICT 機器の活用】</p>	<p>①校内実施の「1学期授業アンケート」では、「授業中、すすんで学習している」という質問項目に対して「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的な回答をした児童が 100%であった。このことからほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。</p> <p>②製作活動中や製作後に互いの作品を鑑賞し合い、よさを見付けたり自分の表現に生かしたりすることについて、まだ成長できる部分があると考えられる。</p>	<p>①材料や用具、表しなどを複数提示するなどをして、児童が自分の思いに合わせて自ら考えたり決定したりすることができる授業づくりを行い、今後のアンケートでは「すすんで学習している」という質問項目に対して「とてもそう思う」の回答が 90%以上になるようにしていく。</p> <p>②作品完成後だけでなく、製作活動中であっても互いの作品を鑑賞したり互いに相談し合ったりしながら問題解決ができるように授業を展開していく。また、学習者用端末を使用して作品の共有を行い、学びを深めていけるようにする。単元末の児童の振り返りなどから授業者の授業改善を振り返る。</p>
体育	<p>①運動量の確保された体育授業の改善実施【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②ICT 機器を用いた振り返り活動の充実【ICT 機器の活用】</p>	<p>①令和 6年度の体力テストの結果では、多くの種目で平均水準近くはあったが、50m走の記録が低い傾向にあったため、体全体を使った運動を多く取り入れることが必要になる。</p> <p>②振り返り活動の中で、課題とする運動に対しての自己分析や技能に対する解決策を考えられる児童が半数未満である。自分の動きを客観視し、自己評価できる環境を整えることが必要である。</p>	<p>①主運動につながる運動を行う時に、ねらいとする動きにつながる準備運動や動きのポイントを意識した運動を行っていく。</p> <p>②自分が運動している様子を動画で撮影し、手本の動画との違いを比較し、客観的に評価できるようにさせる。また、動画として記録を残し、自己の成長の様子を見取らせる。</p>
外国語 活動	<p>①学ぶ楽しさを実感させる、音声でのやり取り中心の授業の充実【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②ICT 機器を用いた言語外情報としての視覚教材の活用【ICT 機器の活用】</p>	<p>①アンケート項目「すすんで学習している」に対して肯定的な回答をした児童が 96%であり、ほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。</p> <p>②アンケート項目「集中して取り組んでいる」に対して肯定的な回答をした児童は 96%である。残りの 4%の児童の集中を切らすことなく、最後まで参加させることが課題である。</p>	<p>①互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を通して、実際に自分のことを伝え、相手のことを知るという体験を繰り返させ、音声で外国語のやり取りが成立するという達成感を持たせられるようにする。</p> <p>②児童の理解促進のための言語外情報の視覚教材として ICT で絵や写真を提示し、活用する。また、動画教材を使うことで児童が集中して言語材料に慣れ親しみ続け、主体的に言語材料の意味内容を捉えて習得につなげられるようにする。</p>
道徳	<p>①主体的に自己を見つめ、考えを深める授業の充実【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②ICT 機器を用いた意見の共有と振り返りの充実【ICT 機器の活用】</p>	<p>①場面から登場人物の気持ちを考え、自分の考えを表現できる児童が多い一方で、友達の考えを聞いて自分を振り返り、道徳的価値をさらに深めていくことには苦手意識をもつ児童も多い。</p> <p>②学習者用端末を用いることで考えを表せる児童が増える傾向にはあるが、友達と考えを共有しただけで満足し考える時間が終わってしまう児童も多い。</p>	<p>①グループやペア等での対話的な学習を行い、友達と自分の考えの違いに気付いたり、話し合ったりする機会を増やす。</p> <p>②学習者用端末を用いて考えを共有するだけでなく、友達の考えに対する自分の考えなどを表現できるような ICT 機器の使い方を工夫していく。振り返り際には自己の生活を見つめ直し、考えたことを表現できるようにする。</p>

